

◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<7月> 業界の景況(前月比DI値)

晴れ間は無く、全体の景況は依然として厳しい状況である。
梅雨の長雨による影響を受けた業界が多数あった。

30以上	10~30未満	10未満 ~△10	△10超~ △30未満	△30以下
				

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		平成31年4月	令和元年5月	令和元年6月	令和元年7月
製造業	食料品製造業	 △ 25	 0	 △ 40	 0
	木材・木製品製造業	 0	 0	 0	 0
	印刷・出版 同関連製造業	 0	 0	 0	 0
	窯業・土石製品 同製造業	 0	 △ 33	 0	 0
	鉄鋼・金属 同製造業	 △ 50	 △ 50	 △ 33	 △ 67
非製造業	卸売業	 △ 25	 △ 20	 △ 20	 △ 40
	小売業	 △ 33	 △ 33	 △ 50	 △ 50
	商店街	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 33
	サービス業	 △ 33	 0	 △ 17	 △ 14
	建設業	 △ 17	 △ 17	 △ 17	 △ 17
	運輸業	 0	 0	 △ 50	 △ 33
その他	 0	 0	 0	 0	

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	<p>今年の7月は例年に比べて気温が低いいためか、味噌の売れ行きが良い。業界全体としても味噌輸出の動きが活発で、伸びが止まらない状況となっている。先日、海外の方がある組合員工場味噌仕込み体験を行った。日本の文化を知りたいという目的で来日したようだが、楽しみながら「発酵」についてたくさんの質問をしていた。自分が作った味噌をお土産にして、大変喜ばれていた。毎年県内で「仙台味噌の出前教室」を開催しているが、日本人以上に海外の方が味噌は体に良く、ダイエット効果もあることを知っているようで、改めてもっと多くの日本人にPRすべきだと考えさせられた。</p>
冷凍業界	<p>前浜魚等季節ごとに水揚げされる魚の魚種、サイズの変化・変動等で安定供給されず、仕入価格の高騰や減少等原料確保が課題となっている。</p> <p>東日本大震災からの施設復旧のため自己負担金の返済が始まり、資金繰りの悪化がでてきている。</p>
水産練製品業界	<p>同業者が2社廃業し、関連業者の廃業や営業所の撤退もでてきている。最低賃金の上昇や人手不足による人件費上昇も懸念される。</p>
製麺業界	<p>景況は前月より改善しているが、厳しい状況が続いている。</p>
木材業界	<p>県内の6月の住宅着工数は1,513戸で、前月比は8%増加、前年同月比は19%減少した。持ち家は2月以来、右肩上がりが増加していたが減少に転じ、貸家、分譲は増加した。</p> <p>原木の荷動きは悪くないが、4月以降、横ばいから値下がり傾向が続いている。製品は、全体的に安定した動きながら価格は横ばいとなった。グリーン材は荷余り感から値下がりとなっている。</p> <p>合板の荷動きは順調で、フル操業が続いている。酷暑により、秋以降の原木出材が気懸かりである。</p>
印刷業界	<p>大手印刷会社からの発注量が減少し、下請小規模印刷会社の廃業もでてきた。</p>
生コンクリート業界	<p>7月の生コンクリート出荷量は、前月より16.5%増加した。地域別では石巻、気仙沼地区の復興関連、仙台地区はショッピングセンター等の民需で増加し、大崎、県北地区は前月の出荷量が少なかったことから増加となった。</p> <p>また、前年同月比では、12.0%増加となった。地区別では石巻、気仙沼地区では復興関連、仙台地区は民需で増加した。大崎は出荷量が少なかったことから増加し、県南、県北は官民需共に減少した。</p>
コンクリート製品業界	<p>組合員の6月の出荷量は、前月比97%であった。前年同月比でも</p>

	<p>75%、累計で 76%と昨年の実績を下回った。</p> <p>今後さらなる生産量の調整と、在庫量の管理も大切な時期であり、出荷促進を継続しなければならない状況である。</p> <p>(※コンクリート製品業界は、とりまとめ時期の関係から 1 ヶ月遅れの報告です)</p>
機械金属業界 A	<p>組合員によって前月比の売上高・業界の景況にバラつきが見られる。全体的に景況は停滞もしくは悪化傾向にある。</p>
機械金属業界 B	<p>先月に引き続き、取引先の業績不振や設備投資の落ち着き等により、製造業関連については売上、収益共に減少傾向で厳しい状況が続いている。</p>
再生資源業界	<p>鉄スクラップの 7 月の価格は、暴落局面の 5~6 月より、底を打った状態となった。国内はオリンピック関連の鉄鋼製品需要が一段落し鉄鋼製品の価格は上昇しないが、鉄スクラップの発生量が全国的に急減少したことから、スクラップ不足による需給バランスの変化により値上げが見込まれる。</p> <p>古紙価格は鉄スクラップと異なり中国への輸出の停滞から、引き続き日本国内に大幅な余剰感がでてきている。ダンボール・雑誌古紙は在庫が増加し各古紙問屋の経営を圧迫している状況である。これは中短期的には解決が難しく、あくまで中国への輸出成約の成否に大きく左右される問題であり、日本国内での解決は難しい見通しだ。</p>
繊維業界	<p>梅雨明けが遅れ、夏物の追い込みがずれこんだ。冷感衣料品も後半になって動き出し、秋物の立ち上げを早くする動きが出てきた。</p>
ゴム製品卸売業界	<p>7 月に入り低温で雨の多い日が続き、思うように季節商品の売れ行きが伸びない状況であった。月の後半は猛暑の日が多くなり社会全体の消費が増えて、多少景況は良くなった。</p>
鮮魚卸売業界	<p>7 月は例年ほどの一般客の減少はなく、前月比では増加に転じた。一方、マグロの水揚げが細く、活気が出ていない。珍しく鰹が入荷してそこそこの値段で、販売量は増えた。夏休みに入り土日は子供連れが多くなった。</p>
鮮魚小売業界	<p>梅雨に入り、雨の日が多く魚が売れない。入荷は相変わらず少なく、価格は高くなっている。</p>
青果小売業界	<p>梅雨寒と日照不足、その後の西日本の大雨、そして月後半の猛暑の影響は野菜、果物全般の品質や糖度、価格に大影響を及ぼし、我々小売店には売上や収益の減少、来客数の減少もあり厳しい月であった。</p> <p>消費者の原体離れ、加工調理済み食品へのシフトは、業界全体の将来に不安を与えている。</p>

家電小売業界	<p>今年の5月後半の暑さで、エアコンの動きが昨年より早かったが、梅雨入り後は気温が上がらず季節商品の動きにブレーキがかかっている。地域電気店では10月の消費税増税後に政府が実施する「キャッシュレス・消費者還元事業」への対応に追われている。増税後は一時的に需要が落ち込む見込みだが大型スポーツイベントが続くことから、大画面4Kテレビは引き続き堅調に推移すると見られている。</p> <p>また、家電エコポイント制度を利用して購入したエアコンや冷蔵庫が買い替えサイクルに入り始めることから白物家電全般で買い替え需要に期待している。</p>
石油小売業界	<p>米中貿易摩擦を背景とした世界景気の減速や、米国とイランの対立による中東情勢の緊迫化により、原油の国際相場は膠着している。</p> <p>また、石油輸出で重要な地域であるホルムズ海峡の封鎖など供給障害が生じた場合には、市場の警戒心は高まり、原油相場が急伸するリスクも懸念される。国内の石油製品は、小幅な値下がりが見込まれる。</p>
花卉小売業界	<p>当月の売上については、前年同月比で98.5%と昨年をやや下回り、前月の低調から引き続き活況を感じられない月となった。要因としては、小売店での切花の売れ行きが悪化や、家族葬や小規模葬儀の増加により、スタンド花等の葬儀需要の減少が挙げられる。当月は雨の日が多く、消費税増税前で一般消費者の購買意欲の低下もあり、売上低迷であった。</p>
商店街	<p>(仙台地区A商店街) 労働力不足が課題となっている。</p> <p>(仙台地区B商店街) 6月にオープンしたタピオカ専門店は連日行列で混雑が見られていたが、7月中旬に一時閉店となり人通りが落ち着いた。一方、周辺には新たにタピオカ専門店開業の動きがあるようだ。</p> <p>(大崎地区A商店街) 7月に旧市民病院跡地に開設された「道の駅おおさき」の商店街への回遊効果の期待もあり、サービス券発行の工夫をするも買い物への動機の違いもあってか、期待した程の状況ではなかった。参院選や先月に引き続き天候不順もあり、商況は依然として厳しい状況が続いた。</p>
クリーニング業界	<p>異常気象のため売上は悪化している。</p>
自動車整備業界	<p>持込車検台数は+9.8%と好調で、梅雨明けから茹るような暑さが続いているが、例年に比べエアコンやバッテリートラブルは比較的少ない。新車販売は全体で+4.1%と順調である。軽自動車は2ヶ月連</p>

	<p>続のマイナス（-0.6%）で、特にシェアの高いスズキが完成検査問題の再発防止策として生産スピードを落としていることが影響していると思われる。大型トラックは+13%と好調であった。</p>
廃棄物処理業界	<p>他業種同様に運転手の確保が厳しい状況が続いている。</p>
ソフトウェア業界	<p>「2025年の崖」という言葉を時々目にする。経済産業省が昨年発表した「ITシステム『2025年の崖』の克服とDXの本格的な展開」内の言葉で、旧来より使われていた「レガシーシステム」の維持保守や更新が「デジタルトランスフォーメーション（DX）」等の対策が打てず企業のIT化が時代についていけなくなる事である。</p> <p>ITと言えば時代の最先端と言う感覚に捉われがちだが、企業内事務処理のシステム化が始まって約50年経過するも、旧来のコンピュータシステムが現役のところも少なからず有ると言う事を再認識しなければならない。2025年まで"まだ6年"と考えるか、"あと6年"と考えるかは、我々の考え方の問題だが、早めに取り組んでいかなければならない事は確実である。</p>
警備業界	<p>毎年7～8月には各地で花火大会や夏祭りが計画、実施されている。県内ではいくつかの町で警備員不足や運営スタッフの人手不足で、大会の中止を余儀なくされているところがある。宮城県内には360社約1万人の警備員が、警備の仕事に従事しているが「きつい」「汚い」「低賃金」等の理由で有効求人倍率は7.88倍に跳ね上がっている。警備員の処遇改善、待遇改善は待ったなしである。</p>
湾岸旅客業界	<p>7月は、昨年にも増して、曇天雨天の日が多く、海の日を含む3連休も天候不順であったため旅客数、売上とも前年同月比で減少した。</p>
シーリング業界	<p>官公庁物件、民間工事物件とも改修工事が増加傾向である。新築物件は事業所間のバラつきはあるが、例年どおり推移している。また、梅雨明けし、物件の進捗は良好であるが、お盆休暇、9月の半期決算に向けて今後工事のピークが予想され、人員不足が悩みの一つとなっている。一件一件の受注状況も大中小様々で、当月も事業所間でのバラつきが多くみられている。今後は秋口からのスタート物件が出揃う中、年末から年度末に向け大きな工事がピークを迎えるため、人員不足が懸念される。</p>
建設業界	<p>復興事業も総仕上げの段階に入り、残り1年半程度となり、効率の悪い手間のかかる工事が残っており、施工面では様々な創意工夫等の実践が求められている。</p> <p>また、防災・減災・国土強靱化の3ヶ年緊急対策による来年度までの別枠での予算も確保されている。一方で、復興事業が来年度完了し、別枠での緊急対策予算がなくなることに大きな危機感を抱いており、令和3年度以降の社会資本整備予算の安定的な確保が望まれる。</p>

硝子業界	7月は夏の兆しがない状況が続き、虫除け用の網戸の新設や張替えの仕事にも影響があった。当組合の購買には若干弱含みが見られるが、リフォーム関連の仕事が順調に推移している。
板金業界	新築物件は減少傾向で、大型物件とリフォーム物件は引き続き不変である。
タクシー業界	実車率は若干増加し、輸送収入は大幅に増加している。 LPG価格が大幅に値下がりした。
倉庫業界	<p>前月比の売上高は、若干減少している。品目別の在庫量は、農産品が増加しているが、紙・パルプ、食料品が減少している。在庫量は紙・パルプやゴム製品が増加したが、全体の荷動きとしては減少傾向にある。</p> <p>前年同月比の売上高は、同程度である。品目別では、在庫・在庫量は、農産物、金属製品、ゴム製品等に増加が見られ、全体としてはほぼ同程度であった。</p>
不動産業界	引越業者不足のため、春の転勤を取りやめた会社からの仙台市内の賃貸物件の問い合わせが多かった。